

マテリアリティ(重要課題)

私たちは「限りない創造 社会への奉仕」を社是とし、当社の成長を通じて持続可能な社会の実現に貢献し、「社会的価値」と「経済的価値」の両立を目指しています。2030事業計画で掲げている「目指す姿」と「提供価値」の実現に向けて、変化する事業環境を考慮し、社会予測やSDGsなどのさまざまな社会課題の中から、当社として特に貢献できる重要な分野を「マテリアリティ」として選定し、取り組んでいます。

マテリアリティ特定のプロセス

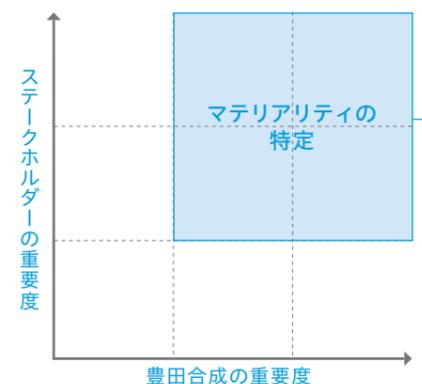
STEP1 マテリアリティ候補の抽出
社会課題、市場・社会動向、GRIスタンダード、SDGs、他社マテリアリティなどを参考に、関係部門より選任されたサステナビリティ推進メンバーにて検討すべき課題を抽出(59項目)

STEP2 マテリアリティ候補の評価・分析
豊田合成の重要度(経営理念、経営資本、競争優位性・強みとの相互作用など)、ステークホルダーの重要度(社会課題への貢献、ESG活動の推進など)に基づき分析・評価

STEP3 経営陣による妥当性評価
特定プロセスを含む抽出した重要課題に対して、社外取締役をはじめ役員、投資家への意見聴取を行い、マテリアリティの妥当性を評価

STEP4 マテリアリティの特定
経営会議体での審議を経て重点取り組みテーマを選定

STEP5 レビュー
会社方針と紐づけた取り組みのレビュー、サステナビリティ会議における確認・定期的なマテリアリティの見直しを実施



社会課題/メガトレンド	機会とリスク	発現時期			企業インパクト	
		短期	中期	長期	ポジティブ (機会)	ネガティブ (リスク)
CASE(BEV/FCEV) 市場拡大 ■自動車の技術革新(電動化・知能化)と安心・安全なモビリティ社会の両立 ■デジタル・IT化の加速による企業競争力の変化	BEV普及による新技術・新製品の戦略的な市場投入(OEM・サプライチェーンの進化)	●	●	●	↑↑	↓↓
	BEV先行市場の拡大、BEV先行OEMの躍進(市場・勢力図の変化)	●	●	●	↑	↓↓
	環境負荷の低いHEV・PHEVの需要拡大	●	●	●	↑↑	
	FCEV市場の伸展			●	↑↑↑	
	交通事故未然防止技術の進化	●	●	●	↑↑↑	
	燃料系部品の需要減少		●	●		↓↓
MaaS市場拡大 ■環境問題の深刻化 ■気候変動と資源不足によるビジネスの転換(法規制厳格化)	利用者のクルマに対する価値観・使い方の変化(交通インフラの発達、より快適な車室空間)		●	●	↑↑	↓↓
	市場変化				↑↑↑	
	デジタル化・IoT・DX加速	生産～納入の効率化(リアルタイムモニタ・予防保全・無人化など)	●	●	●	↑↑↑
環境・資源 ■人口構造の変化(少子・高齢化) ■価値観の変化/働き方の多様化	グリーンテクノロジー※、グリーントランスフォーメーションによる新分野の市場拡大	●	●	●	↑↑↑	↓↓
	カーボンプライシングの導入による競争力の変化		●	●	↑↑↑	↓↓↓
	ゴム・樹脂材料の使いこなし、材料開発(リサイクル材料、軽量化、材料置換、新規材料)	●	●	●	↑↑↑	↓↓
	異常気象による大規模災害	●	●	●	↑↑	↓↓↓
	省エネ・再エネの促進(エネルギーコスト低減、GHG排出量削減)	●	●	●	↑↑↑	
人的資本 ■BCPリスク ■地政学リスクの高まり	DE&Iの促進による思考・スキル・経験の多様化	●	●	●	↑↑↑	
	人材ポートフォリオに基づく効率的な人的資本の活用	●	●	●	↑↑↑	
	労務費高騰、採用難	●	●	●		↓↓
	地政学リスクや感染症・災害による生産影響、サプライチェーン分断、人的被害	●	●	●	↑↑	↓↓↓
サプライチェーン ■地政学リスクの高まり	部品・原材料不足・価格高騰、物流コストの上昇	●	●	●		↓↓↓
	重要品質問題・リコールの発生	(●)	(●)	(●)		↓↓↓
	サイバー攻撃・詐欺メール	(●)	(●)	(●)		↓↓↓
ガバナンス	機密情報漏洩	(●)	(●)	(●)		↓↓
	独占禁止法違反(談合・カルテル)	(●)	(●)	(●)		↓↓

※ グリーンテクノロジー：環境問題を解決、あるいは緩和するための技術・製品(例：軽量化や脱炭素に資する技術・製品など)

短期(3年以内)、中期(2029年まで)、長期(2030年以降)

↑:ポジティブインパクト、↓:ネガティブインパクト

マテリアリティ(重要課題)

事業活動

経営基盤

社会課題／メгатレンド	サステナビリティ重要課題 (マテリアリティ)	主な取り組み (社会課題・機会リスクへの対応)	KPI・中長期目標 (2030年度)	関連するSDGs 最重要分野
	<ul style="list-style-type: none"> クルマの様変わりへの対応 交通死亡事故の低減による安心・安全、快適なモビリティ社会の実現 	<ul style="list-style-type: none"> BEV化に向けた新製品の開発 BEV先行市場・OEMへの拡販 	<ul style="list-style-type: none"> BEV関連売上収益比率:40% <small>目標設定の計算式 BEV生産台数/自動車生産台数 ※S&Pグローバル情報に基づく</small> 	 安心・安全・快適なモビリティ社会の実現
	<ul style="list-style-type: none"> コア技術を活用した新規事業の創出 	<ul style="list-style-type: none"> すべての人に安心・安全、快適を届けるためのエアバッグ製品の開発・拡販 	<ul style="list-style-type: none"> エアバッグの生産個数 : +1.5倍(2022年比) 	
	<ul style="list-style-type: none"> CO₂排出量削減・温室効果ガス排出量削減による脱炭素社会の構築 廃棄物低減・水リスク低減による循環型社会の構築 	<ul style="list-style-type: none"> 新規事業開発の経験を活かした新規ビジネス拡大 コーポレートベンチャーキャピタルの活用 デジタル化推進による業務革新 	<ul style="list-style-type: none"> キャッシュ・アロケーションに基づく(安心・安全、快適、脱炭素の貢献領域の拡大を目指した研究開発費や人的投資、戦略投資を中心に資金配分) 	 イノベーション創出による社会課題解決
	<ul style="list-style-type: none"> CO₂排出量削減・温室効果ガス排出量削減による脱炭素社会の構築 廃棄物低減・水リスク低減による循環型社会の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ゴム・樹脂分野の知見を活かした環境配慮型ビジネスの構築 カーボンニュートラルの実現に向けたグローバル一体活動 循環型社会への貢献 (Car to Car リサイクル) 	<ul style="list-style-type: none"> スコープ1、2:カーボンニュートラル スコープ3:△27.5%(2019年比) 再エネ導入率:100% 廃棄物量(総量)【単体】:△50%(2012年比) 廃棄物量(原単位)【海外】:△55%(2015年比) 	
	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会との共生 多様な人材の活用推進・人権尊重 	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会に根差した取り組み(地域自立的経営、センターオブエクセレンス) ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン 安全・健康経営 サステナビリティ経営を支える品質とサプライチェーンの強化 地政学・経済的リスクへの対応 	<ul style="list-style-type: none"> 人権に関する研修実施率:100% 海外拠点のナショナルスタッフ幹部比率(副社長以上):60%以上 女性管理職数(比率)【単体】:100人(8.8%) 中途採用者の管理職比率【単体】:30%以上 仕入先のサステナビリティ活動実施率:100% 従業員エンゲージメント肯定率【単体】:75% 重大災害発生件数:0件 	  多様な人材の活躍による持続的成長
	<ul style="list-style-type: none"> 誠実な会社としてのコーポレートガバナンス コンプライアンスの徹底 	<ul style="list-style-type: none"> BCPのレジリエンス強化 内部統制の強化 	<ul style="list-style-type: none"> 重大法令違反件数:0件 サイバーセキュリティ重大インシデント:0件 	
	<ul style="list-style-type: none"> 誠実な会社としてのコーポレートガバナンス コンプライアンスの徹底 	<ul style="list-style-type: none"> BCPのレジリエンス強化 内部統制の強化 	<ul style="list-style-type: none"> 重大法令違反件数:0件 サイバーセキュリティ重大インシデント:0件 	 公平で透明性のある企業統治体制